



TITLE:

歸朝して

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 歸朝して. 天界 1925, 5(52): 133-136

ISSUE DATE:

1925-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160247>

RIGHT:

天 界

第五十二號

(第五卷)

大正十四年五月號

歸 朝

し て

(From My Travel Abroad)

教授 理學士 山 本 一 清

約二ヶ年半の海外旅行を終へて、去る三月三日の朝、私は妻と共に神戸に着き、ホッとした。上海でも、神戸でも同好會の名を以つて多くの會員たちに迎へられたことを喜びました。

願へば、大正十一年の九月半ばに横濱を立つてから今度の神戸着の日まで、毎日、新しい物ごみを見聞したのでありますから、とにかく、土産ばなしの種は、ぐつさり出来ました。無論、それは職掌柄の天文學に關する以外にも多く、殊に、私としては、婦人を同行したがために、日本から行く普通の海外旅行者が経験しない事がらを到るころで見たり聞いたりました。此の間の日々の記録は、簡單ではありますが、わが「天界」誌上に海外日誌として載せられてありますから、多くの會員たちが讀んで下さつたこと、思ひます。編輯の都合上、海外日誌の日附けは「天界」の發行期日より遙かに後れ

て居りますが、それは一面に於いて止むを得ないことであり、又、或る人々を除けば、多數の讀者には何も御差支への無いくことでせう。

出發の頃、「御別れに臨みて」三といふ一文を天界に寄せ、未だ決められぬ旅行の豫定見たいな事迄も書いたものですが、今歸つて來て、あの文を讀み返したりするに、私としては、感慨無量であります——勿論、旅行の大體の順序は、あの豫定どほりにやりました。即ち、まづ最初に、米國ヤークス天文臺へ、次ぎに、日食觀測を兼ねて加州の井ルソン山へ、それからハーヴード大學天文臺へ、最後には歐洲へ三といふ順序を踏みましたのですが、こまかい事になりますに、いろいろ豫定が外れたり、新しい思ひ附きが起つたりしたことは、此の種の旅には有り勝ちでせう。それに、文部省から最初に受けた命令としては、英獨米三ヶ國に滿二年間在留せよとい

ふのでありましたが、其の後、オランダミフランスミを在留國に追加され、しかも、其れに拘らず、都合により、殆んど滿二ヶ年を最初の米國に費して了ひました。め、歐洲では全く私費旅行をつゞけました。

米國ヤークース天文臺では、私が行つてから間もなくバーナード教授の死に會ひ、多少落膽しましたが、其の代り、グンビースブルク教授やバーカー教授の御世話になり、むしろ、豫想以上の有益な經驗を得ました。カタリナ島に於ける日食觀測は、曇りのため、力を落しましたけれど、此の場合にも觀測遠征そのもの、見學としては復得られない好い機會を與へられ、『結局、天の晴曇に拘らないほどの貴重な實際學を學ぶことが出來た』と言つて、私はオハヨ・エスレイ大學天文臺のクラム教授と共に喜び合つたことでした。

井ルン山天文臺に於ける三ヶ月は、可なり忙しいものでありました。アボト、アダムス兩氏から與へられた研究事項が仲々の大問題であり、又、其の研究のための材料が非常に豊富なものであつた。め、いよく引き上げて、東部に歸る其の日まで、全く眼のまはる思ひをしました。——之れがこゝろバサデナ滞在中だけでは片付かず、後に、ハーブードまで持ち越して、尙可なりの時間を整理に費しましたが、研究結果の要領は、昨年末、漸く英國ロイヤル天文學會の月報誌上で發表しました。——加州滞在中に、東京横濱附近の大震災

の報をき、其れに應ずる米國民の活躍を見たこと、又、此の地方に於ける日本人たちの働き振りを見たこと、は、亦得難い經驗でした。

ハーブード大學天文臺に移つて、研究中、たま／＼日本の文部省會計課の間に行き違ひが生じ、ために、四月の渡歐が九月に延びたことは、其の後の日程を全然變更させるほどの影響を私に與へましたが、幸ひにして、私はシャプレイ臺長に厚遇され、マゼラン星雲の研究に没頭しましたから、結局は右の行き違ひが却つて仕合はせてあつたことも思はれます。——この、ケンブリヂ滞在中に、米國では、かの日本人排斥の新移民法案に關する多くの問題が持ち上り、米國の政治家や一般民衆について、いろ／＼新しい考へを與へられました。

昨年九月、ヨーロッパに渡つて後、まづ、田中館博士等と共にスペイン國に行き、マドリド市に滞在して、測地學及び地球物理學の國際大會に出席し、學術上の最高行政機關に接觸しましたことは、亦、可なり有益なものでした。次いで、佛國パリを中心とし、中央ヨーロッパ諸國を旅行しましたが、それは主として各地の天文臺ミ天文家たちを訪問するのが目的であつたことは申すまでもありません。

なにも、初めから特別にそうした心積りをして居たわけではありませんけれど、米國では大陸を東西に三回も横斷旅行し、歐洲でも、北歐ミ東歐ミを除く總ての國々をまはりまし

たがため、前後二ヶ年半の間に訪れた天文臺は、米で三十一ヶ所、歐で四十五ヶ所、合計七十六ヶ所の多數に上り、只、有名な所としてはピッツバーグ其の他二三ヶ所を見落したに過ぎません。又、米國では全米天文學會の大會には四回も續け様に出席し、其の他、變光星會などにも出ましたので、アメリカに居る有名な天文學者には大抵二三回も會ひ、顔なじみになりました。歐洲では、初め希望して居たライプチヒのAG會に出席しませんでしたから、獨逸方面の學者たちには會ふ機會を可なり失ひましたが、それでも、ハイドルベルヒや、ハムブルグや、ベルリンや、ポツダムは皆訪れましたから、第一流の學者たちには大抵面會しました。それに、マドリドの大會では英佛系の多くの天文家たちに出會ひました。尙、それらの事情により、會へないだろうと思つてゐた人々の中で、英のエデントン教授や、瑞典のシャリエー教授や、米のリチー教授や、南米のペライン博士や、南亞のインネス博士に、意外な所々で會つたのは幸ひなことでした。

諸所で得た印象を簡單に一口で言ひ切ることは決して出来るものではありませんが、米國が今有り餘る富力を以つて諸所の天文臺に素晴らしい設備を施してゐることや、英國の公私立天文臺が高緯度や惡天氣に戦ひながら研究をはげんでゐることは、かねて豫想してゐたことは言へ、感服しました。意外であつたことは、佛國の天文臺が何れも貧乏に惱んでゐる

ること、之れに反し、獨逸の天文臺が何れも大戦争の創痍から全く回復して、歐洲第一と思はれるやうな活躍ぶりを見せてゐることでした。又、非常に感心したことは、瑞西、オランダの諸天文臺の勉強ぶりでありました。ス井スミオランダは共に小さい國でありながら、經濟上は可なり餘裕がある見え、小さいながらも可なり立派な設備やら計畫をして私を羨ましがらせました。スキスの天文臺は何れも近い將來に意想外な發展をするらしく見えます。例へばツリーヒ大學では星團研究を始め、ジュネーヴ大學では星雲撮影に志ざしニュシヤテルでは恒星スペクトル研究に手を付け、バーゼルでは精密光度計を備へるなど。又、オランダの五つの天文研究所は數年前から相互に協同關係を密にし、相援けて研究をはげんでゐます。私が思ふに、英米獨のやうな大國の天文臺は、偉大は偉大ですけれど、其のまゝ我が日本の模範とするのには、彼我餘りに懸け離れ過ぎてゐると思はれます。それに反し、前述の二小國の天文家たちの心持ちは其のまゝ、日本にも取り入れられるやうな多くの暗示を與へるものでありませう。(詳しい事情は、又、別の時に書いて見ませう。)

私の在外中に、わが日本の天文界も可なり變化があつたやうです。京都大學天文臺がコンクリートの美事な建築を二つも新たに得て、屋上には直徑三十尺の大ドームが新機械を待つてゐる姿。又、(或る程度までは、かの大震災に促進された

のでありませうが、東京天文臺が愈々三鷹村の新位置に移つて、將來の時代を劃しやうとしてゐるこゝ。この二つは何れも喜ぶべき學界の事件に違ひありません。水澤の緯度觀測所は私が出發前既に大規模なものになつて了つてゐました。神戸海洋氣象臺にも太陽寫眞器や十吋赤道儀が据付けられて、天文觀測を始めるやうになりました。最近には松隈理學士が東北大學に赴任せられて、あすこにも新しく天文講座が設けられるらしく見えます。又、民間には天文學の意味が益々普及して、百を以つて數へるべき可なりな望遠鏡が過去二三年間に輸入せられ、又、天文に關する書物や雜誌新聞記事も著しく増加しました。天文同好會や天文學會が多數の熱心な會員を擁してゐるのも力強いこゝには違ひありません——しかしながら、かうした日本天文社會の發展ぶりも、今、世界の狀勢を見て來た眼を以つて見るに、未だ／＼理想に遠いこゝを悲しませます。私の率直な希望を言へば、わが日本は天體觀測上の特殊な經度を占めてゐる世界的責任のために、少なくとも三十ヶ所の天文臺を設置することを急がなくてはなりません。勿論それは公立でも私立でも宜しい。外國の例から見ると、かうした設備は多く私立の方が成功します。現今五ヶ所の帝國大學を始め、多くの公私立大學には成るべく天文講座が置かれ、高尚な好學心にもゆる青年たちの望みを満たさねばなりません。書物なごも、立派な標準書が多く刊行せ

四

られ、人々のために知識の窓を開くべきでせう。
右、歸朝しての直ぐの感想を取り敢へず。

口繪について

昨年の十月七日、スペインはマドリドの衆議院の中で、測地學と地球學との國際會議が愈々終りに近づいた頃、ふと見ると、休憩室の物賣り場に「寫眞賣出し」と大きく廣告して、掲げられた數葉の寫眞がありました。なるほど土産には好かるうと思つて、近寄りつゝ、其の見本の一枚／＼づゝを見ると、驚くべし私等夫婦を大きく撮つたのが一つ、やはり、賣り物にされてゐるではありませんか!!之れは大變さ、人手に渡らない内に早速五ペソタの大金を拂つて私は買ひ取つたのでした。それが此の口繪です。見ると之れは十月三日に一同が案内されて古いトレドの都を見物中の寫眞で、實は誰が撮つたのか知りませんが、とにかく、日本人珍らしさに、態々吾々兩人を目がけて、無心に歩くところを正面からパチンとやられたものらしいです。偶然ではありますが、田中館博士が後方の壁側に小さく寫つてゐられるのも御覽下さい。又、かれて、スペインといふ國の太陽の強さも。(山本)

パーカー・スト教授 近着報によれば、米國ヤークス天文臺のパーカー・スト(J. A. Parkhurst)教授は去る三月一日死去されたといふ。氏は一九〇〇年以來長く同所に在つて天体光度の研究に従事した斯界のオーソリティであつた。次號に其の傳記をのせる。